

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月15日

【評価実施概要】

事業所番号	4270202296
法人名	有限会社 いこい
事業所名	グループホーム 胡桃
所在地	〒857-1152 長崎県佐世保市黒髪町4522 (電話) 0956-34-8833

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年9月4日	評価確定日	平成20年9月30日

【情報提供票より】(平成20年8月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	7,575円又は6,000円・実費
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円 円		

(4) 利用者の概要(平成20年8月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.7 歳	最低	76 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	加瀬クリニック・高橋脳神経外科クリニック・ほかお歯科
---------	----------------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム開設から4年が経過し、ホームとしての基盤作りは整っている。特に地域住民との深く幅広い交流は「地域密着型」としての理想が完成されていると言っても過言ではない。入居者の表情の明るさや、気軽に職員と会話されている雰囲気「自宅生活の延長線にある」ことを物語っているホームである。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価の課題への取り組みは、会議録として残してあるが、改善計画シートの作成はなされておらず、災害対策は火災への取り組み以外は未着手で今後の課題として取り組む姿勢が窺える。入居者に対する相談などにも積極的に取り組まれている。入居者の終末期への取り組みも徐々に達成されている。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は分かる範囲で職員が記入し管理者へ提出され、管理者がまとめられている。自己評価や外部評価を受けることでカンファレンスや職員会議での発言が多くなり「気付きノート・重要事項申し送り書」に活かされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催されている。運営推進会議には、地域住民の代表者や入居者、家族、市の担当者など参加され、活発な意見交換がサービス向上に活かされている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の訪問時に日々の暮らしぶりや金銭管理に関する報告をされている。又、毎月発行の「胡桃新聞」には行事写真や活動報告書、行事参加へのお誘いなど情報が満載され、毎月の請求書とともに家族等に送付されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>「地域住民との交流は自慢できます」と施設長が言われるほど深く関わられている。回覧板は入居者にも読んでもらい、ホームと地域の行事参加に活かされている。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	【毎日を 楽しく、明るく、元気よく 地域の方とともに喜びを提供します】を理念に掲げ、地域との交流を深く広く持たれている。職員にも浸透している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勤務終了後の自問自答の4項目がタイムカード横に貼られており、理念の共有と具現化に反映されている。今日の胡桃での一日は有意義でしたか 笑顔で対応できましたか 入居者様中心の対応ができましたか その日一日を振り返り、反省する点はないですか。以上のことを、毎日数分であるが目にし、気に留めることの積み重ねを大事に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	「地域住民との交流は自慢できます」と施設長が言われるほど深く関わられている。回覧板は、入居者にも読んでもらい、双方の行事参加に活かされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は分かる範囲で職員が記入し管理者に渡され管理者がまとめられている。自己評価、外部評価を受けることで、カンファレンスや職員会議での発言が多くなり、「気付きノート・重要事項申し送り書」に活かされている。しかし改善計画シートの作成には至っていない。	○	改善計画シートを作成されることによって、具体的な改善項目を文章化されることにより、サービスの質の向上につながることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月(奇数月)に1回運営推進会議を開催されている。運営推進会議には、地域住民の代表者や入居者、家族、市の担当職員など参加され、活発な意見交換がサービス向上に活かされている。		

グループホーム 胡桃

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長・管理者はそれぞれの立場で、市役所との関わりが多い。当ホームに関わる事例の連絡・相談はその都度行われている。検討中の状態が続くこともあるが、諦めることなく指導を仰ぐ姿勢や連携につなげる姿勢が窺われる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問時に日々の暮らしぶりや金銭管理に関する報告をされている。又、毎月発行の「胡桃新聞」には行事写真や活動報告、行事参加へのお誘いなど情報が満載で、毎月の請求書と共に家族等に送付されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での家族との接点で、何でも相談できる体制を整えている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この一年職員の異動、離職はなく、新採用者や系列のホームからの異動時は新採用や異動に応じて研修プランは入居者へのダメージを与えない配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長や管理者は、職員の研修参加や資格取得の支援を積極的に行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設長や管理者は、広範囲にグループホームネットワークを作られ活躍されている。グループホーム協議会には職員も参加されており情報交換やレクリエーションなどを通して意識を高め、サービスの質の向上を図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の相談から受け入れまで何度も本人と家族、本人周囲の関係者との情報交換の場を作り、本人が納得の上、入居されている。慣れるまでのモニタリングや感情のケアなど細かい配慮がされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の表情は明るく職員と入居者の垣根を越えた「同じ家に住む者同士」としての会話や動きが自然とにじみでており「喜怒哀楽」などを共有している光景が垣間見られ、支えあう環境が構築されている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者は日課がない枠の中で一人一人の生活スタイルで日々を過ごされている。入居者の能力や行動範囲を理解した上で「わがままと自由の区別」が付けにくく、見極めや判断に苦慮されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>試行錯誤の結果、日々のケア記録がアセスメントシートやモニタリング、気付きの共有につながり、本人本位の介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の見直しが必要な場合は、家族連絡など必要な手段を講じながら介護計画の見直しを行われている。計画の変更の必要の有無に関わらず3ヶ月に1回のカンファレンスで介護計画について検討されている。</p>		

グループホーム 胡桃

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 ^の 要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じた病院受診時は家族の同行があるなしに関わらず職員が同行し、情報の共有を図られている。入居者の希望により買い物支援や、地域の老人会の開催場所の提供など柔軟な対応をされている。学生ボランティアの夏祭り参加などで、入居者と子供との交流支援をされている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在、透析治療のための通院が必要な方以外は、かかりつけ医が往診されている。入居者が望むかかりつけ病院との連携はできている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期を迎える入居者がいる場合に「看取りの指針」を家族に提示し、重度化の段階に応じた家族の意向の確認と同意書をとられている。カンファレンス時に随時提案し、職員間の情報の共有などで職員の不安を軽減できるように努力をされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録などは個人情報保護の観点に基づき所定の場所に保管管理をされている。個人を特定できる記録時は白紙を挟むなどされている。入居者の尊厳を損なう言動は職員間で意識の統一を図られている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当ホームには生活上の決まり事はあえて設けられていない。本人の意向に沿って、食事の時間や場所、入浴の時間帯、就寝、起床時間など柔軟な対応をされている。喫煙される利用者に関しては、職員管理の下に健康に配慮した支援をされており、火の取り扱いにも注意を払われている。		

グループホーム 胡桃

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員は時間をずらして食事をされており、入居者が食事をされている時、職員は遠目の見守りや声かけ誘導で支援されている。そのため、入居者の変化や状態の把握に見落としが見られる。	○	食事は楽しみ事のひとつでもあり、ともに食事することで、服薬も含めて僅かな変化や気付きも察知できるのではないだろうか。入居者と職員と一緒に食事できるよう検討されることが望まれる。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の意向に沿った入浴支援を実践されている。何時でも入浴できるように常時お湯を張られており、夕方や夜間でも入居者の意向に沿う支援をされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の能力に応じた日常生活における役割分担が無理なくできている(朝の掃除手伝い、食事の下ごしらえや食後の洗い物担当など)。自宅での生活の延長線としてとらえた近所の方との触れ合いや町内の回覧板を見ることも、本人の活力を引き出す楽しみごとに活かされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、菜園の手入れやホーム周囲の散歩などで五感を刺激する工夫をされている。ベッド上での生活が多い入居者も、体調を観察しながら車椅子で外気に触れる機会を作るなどの支援をされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は昼間に開放されている。外出傾向がある入居者は、職員が見守りや言葉かけをされているが、一人で出歩かれても近隣住民からの通報や、交番には非常時に備えた入居者情報を伝えるなどネットワーク作りをされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの火災訓練や、自主訓練などは近隣住民の協力を得て行われている。避難経路の確保の観点もあり、リビングから直接外に出られるようにウッドデッキを作られている。自然災害時の備えで近くに避難場所を確保するなど取り組みの姿勢を持たれている。	○	持ち出しマニュアルや避難時に住民の協力がどれくらい可能かなど、万が一を想定して利用者の生命を守る手段を検討されることを期待したい。

グループホーム 胡桃

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	現在週3回透析通院されている利用者が2名いる。透析には同じ曜日に行かれるため、他の利用者との献立の工夫をされている。献立や栄養指導を主治医や栄養士から受けられ、組織内に調理師の資格がある方のアドバイスを受けられるなど配慮が見られる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関にベンチが置いてあり、リビングから直接外に出られるようにウッドデッキを最近作られ、使い古しのソファやテーブルなどで居心地の良い空間作りをされている。利用者は好みの場所で寛いでいる。ウッドデッキを降りると菜園があり、季節を五感で感じる工夫をされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込み、各居室は本人の個性が見受けられる。遠方の家族訪問時に泊まることのできるような簡易ベッドを準備されている。		